

河川整備基金助成事業

生き物や地域のつながりの視点をいれた

新しい水辺の評価手法の普及・活用事業報告書

助成番号 : 23-3111-033

公益社団法人 日本水環境学会

中島 淳

平成 23 年度

【目的】

水質の評価に加え、生き物や地域とのつながり、快適性などを加えた水環境の評価手法を、全国の会員の協力のもとに普及し、また様々な活用の結果を参加者に還元する体制を充実していく。

【活動の経緯】

水環境を取り巻く要素は、水質以外にも自然性、生物の多様性、水辺の快適性や人と水との係わりといった幅広い要素から成り立っている。これら多様な要素のうち、水質の改善は図られているが、近年、水質の評価に加えて、地域の特性に応じ良好な水環境を実感できる指標として、多様な要素を取り入れた総合的な評価手法の確立が求められている。昨年度は、「水環境の健全性指標（水辺のすこやかさ指標）」について、実践を行うとともに、各要素の評価のための学術的資料の作成や Web での公表を行ったが、今年度はそれを踏まえて、全国各地での評価の実施とそのための改良、さらには評価結果を活用し、それらを紹介することで、新しい評価手法の有用性が参加者等に認知されることで、さらなる普及へと結びつくことを目指した。

【活動内容】

1 指標調査の実施

メンバーが核となって、各々の地元で、可能な協力団体（中学校やグループなど）を対象に、調査の会を催した。

富山の事例では神通川と身近な小水路での調査報告がなされた。両河川ともは「水のきれいさ」、「自然なすがた」、「豊かな生きもの」に関する評価が高く、一方、「地域とのつながり」に関しては低い評価になる傾向がみられた（資料1）。東京都の事例ではリーダー養成を目的に水草・魚類の専門家ならびに台東区役所職員らとともに隅田川川辺を調査を実施した。さらに台東区役所のハゼ釣り大会時に参加者の協力を得てすこやかさ指標調査を実施した（資料2）。また山梨の事例ではやまなし淡水生物研究会の協力で甲府市内河川の調査を実施した。日頃から川の調査を実施している調査者から評価軸についていくつかの改善点が提案された（資料3）。福岡では遠賀川と支流、建花川及び金辺川流域で調査を実施した（資料4）。また神戸の事例ではすこやかさ指標による河川環境の評価の定量化について行った。その他、大分や千葉などでもすこやかさ指標による調査と改良などの活用が行われた。（詳細は添付資料2 シンポジウム要旨集の事例を参照）

2 結果をまとめ、参加者に還元するためのWebページの充実

昨年度開設した、生き物や地域とのつながりの視点をいれた新しい水辺の評価手法の普及のためのホームページ（以下、ホームページ）に改良を加えた（資料5）。

具体的には新しい水辺の評価手法に関するFAQ（よくある質問とその回答）の頁を新設した。（資料6）。さらに、イベント報告の頁を新設し、過去2年にわたる4回のシンポジウムの内容、要旨集原稿や当日の発表内容についても掲載した（資料7）。その個別頁では、各要旨集や当日の発表資料も閲覧できるようにした（資料8）。

3 ワークショップ開催

結果をみんなで発表し合いつつ、評価について話し合い内容を詰めていく公開シンポジウム「水辺のすこやかさ指標を使ってみよう」を第46回日本水環境学会年会終了翌日

の3月17日午前に東京大学・山上会館にて開催した（添付資料1、2）。昨年度も同様の公開シンポジウムを第45回年会時の開催を予定していたが、東日本大震災の影響で開催中止となった。今回は年会終了後の開催であり、また当日は生憎の雨模様の天候であったにもかかわらず市民・NPO・研究者・学生・行政担当者等60余名の参加があった。当日の来場者へは先着80名の方に簡易水質キットを無料配布した。公開シンポジウムでは6題の口頭発表がなされ、すこやかさ指標についての実践報告ならびに指標の今後の普及・活用へ向けての提案等がなされた。またフロアでも全国各地での新しい評価手法の開発やその実施、活用に関する10題のポスターが展示され、活発な意見交換がなされた（資料9、資料11）。

当日の来場者からアンケートでは本シンポジウムの内容については好意的であり、かつ今後の活動に大変参考になるとの感想をいただいた（資料10）。

【活動の効果】

1 手法の普及

会員の周辺のみならず、全国各地域のNPOや学校、自治体などにも手法の普及がすすんだ。年会後のシンポジウムの参加者は市民・NPO・企業関係者・研究者・学生・行政関係者の60余名あり、東京のみならず地方で取り組んでいる関係者も多数あった。本指標に寄せられる関心の高さが伺えた。指標の広がりの効果として従来の指標をベースに地方の特性にあった地方版指標への改良、また干潟版指標の作成など調査対象に適した指標の改良などが試みられた。

2 手法内容の向上

すこやかさ指標の定量化の試み、干潟版指標の開発、河川の簡易な流量把握ツール開発など従来の指標における課題解決へ向けた各種の改良・開発がなされた。今後さらなる改善が求められる。

3 相互コミュニケーションへの期待

Webの更新により、今後、さらに結果の情報交換や解析への希望のみならず、幅広い方々との相互コミュニケーションの発展が期待される。

【添付資料】

- ・ 活動の主なる日程
- ・ 資料1：富山での事例
- ・ 資料2：隅田川での事例
- ・ 資料3：山梨での事例
- ・ 資料4：福岡での事例
- ・ 資料5：改良したホームページのTopページ
- ・ 資料6：ホームページに追加したFAQの例
- ・ 資料7：ホームページに追加したイベント報告のTop頁
- ・ 資料8：ホームページに追加したイベント報告の個別頁の例
（平成24年3月の公開シンポジウムの頁）
- ・ 資料9：公開シンポジウム（平成24年3月）報告
- ・ 資料10：公開シンポジウム（平成24年3月）アンケート結果
- ・ 資料11：公開シンポジウム当日の様子
- ・ 添付資料1：公開シンポジウム案内のチラシ
- ・ 添付資料2：公開シンポジウム要旨集

【活動の主なる日程】

平成 23 年

- 4 月 10 日 幹事会（東京大学）
- 9 月 10 日 幹事会（東北工業大学）
- 9 月 11 日 第 14 回日本水環境学会シンポジウム（仙台：東北工業大学）参加
- 10 月 15 日 富山県・神通川での調査実施
- 10 月 30 日 富山県・神通川での調査実施
- 11 月 3 日 山梨市市内河川での調査実施
- 11 月 29 日 墨田川での調査実施
福岡市・遠賀川支流金辺川流域調査
- 12 月 4 日 墨田川ハゼ釣り大会&調査実施
- 12 月 17 日 幹事会（東京大学）

平成 24 年

- 2 月～3 月 ホームページ改良内容の検討、業者打合せ、実際の作業など
- 3 月 17 日 公開シンポジウム（東京：東京大学・山上会館）
- 3 月 17 日～31 日 事後処理